

新学習指導要領ガイド(中学社会科)

▼社会科全体について

新学習指導要領(以下、新指)では、「社会的な見方・考え方」ということが強く求められるようになりました。複雑化する社会の課題を追究し、その課題を解決する思考力や判断力を身につけることが目標です。そのためには、主体的に学習し、広い視野を持つことが重要です。

「社会的な見方・考え方」は、社会的な事象をさまざまな視点で捉えて関連付けることです。これまで以上に複数の資料を扱った問題や、複合的な考え方が必要な問題が、定期テストや入試問題で扱われることが予想されます。

▼中学社会科の各分野の変更点

高校では科目編成の変更により「歴史総合」が必修科目となりました。現行学習指導要領(以下、現行)では「日本史」「世界史」と分かれて学習しましたが、新指では日本と世界の歴史をより関連させて学習することになります。

この変更に伴い、中学社会科では地理的分野と歴史的分野の授業時数に変更があります。

- ・地理的分野→115時間(5時間減)
- ・歴史的分野→135時間(5時間増)

この変更で学習内容にも変更があります。

<地理的分野の変更点>

現行の「世界の地域構成」と「日本の地域構成」は、最初の大項目「世界と日本の地域構成」として再構成されました。この変更により「時差」を授業で扱う時期が早まり、中学1年生の前半で学習することになります。

また、地形図などを使用する地域調査の単元は三つ目の大項目「日本の様々な地域」の最初で扱うことになりました。

<歴史的分野の変更点>

歴史的分野は5時間増となり、特に日本の歴史と結びつく、世界史の内容が充実します。モンゴル帝国が、なぜ広大なユーラシア大陸を支配し、元寇を起こしたのかや、ムスリム商人の活躍がのちの大航海時代に影響することなどが追加されます。

また、近現代において、日本の領域についての学習や、現在の政治制度に関連する内容を詳しく扱うようになります。

このように、さまざまな視点から社会的考察をすることが、今後求められます。

<公民的分野の変更点>

最新技術が社会に与える影響として「AI(人工知能)」などを扱います。

また、現代の経済や政治の変化に合わせて、「分業と交換、希少性」などを学習します。

